中央大学杉並高校の古典教育の取り組み〈壱〉
――くずし字学習について――

菊地明範（国語科）

はじめに

二〇一九年八月十日、日本文学関連学会連絡協議会に所属する十六団体が連名で「高等学校国語・新学習指導要領」に対し危惧を表明した。[注1] このことからも容易に推察されるように、このカリキュラム変更により日本の高等学校国語科、とりわけ古典科目の扱いに大きな変化がおこっている。そこに示された「日本語の歴史とともに歩んできた『文学』は、人間の存在意義や尊厳と関わる人文科学、社会科学全般と密接に関わっている。『文学』を狭義の言語芸術に限定し、囲い込んでしまうことによって、言葉によって新たな世界観を切り開いていく『人文知』が、今後の中・高等教育において軽視され、衰退しかねない危惧がある。」との考え方に賛成する。

高校教育の現場、古典教育に携わる身として、この問題に直面しているのが現状である。

とはいえ、幸い本校の国語科では「人文知」を軽視する傾向はなく、古典文学教育の重要性を共通認識として持っているため、「柔軟な運用」が許され、古典科目の時間数減にはなっていない。二〇二四年度には三年間を新カリキュラムで了える生徒が巣立つ予定である。この機会に本校の古典科目が何を目指し、どのような取り組みをしているのかまと

めておくことには意味があろうと愚考し拙文をまとめるものである。

中杉古典教育の取り組み〈壱〉としたのは、数回に渡って古典教育で目指したことをまとめようとしてのことである。大方の批正を乞うものである。

今回は三年次の一学期前半に行われる「くずし字学習」についてまとめることとする。

くずし字学習を支えるもの

本校でくずし字を読む授業が展開されるようになったのはいつからだろうか。私が奉職した一九九三年にはすでに先輩教員によってくずし字の授業が展開されていたと記憶する。その後私も三年生の古典を持つ度にくずし字読解の授業を展開することにしてきた。

この授業を支える柱の一つとして、本校は大学附属高校として独自のカリキュラムで授業展開ができることが挙げられる。いわゆる受験勉強に特化しない国語の授業が可能なのである。受験勉強に特化しないということは、入試問題解法テクニックを積極的に身につける必要がないということである。作品を「読む」ことに真っ直ぐ向き合うことができると言っても良いだろう。これは大変恵まれたことである。「進学校ではあるが受験校ではない」などと表現し、それぞれの教員が自分の教材・教案に磨きをかけていった。

独特の教育実践としては、『源氏物語』をグループに分け、大学のゼミ活動のように発表をさせたり、本文の書写を通じて作品理解を深めたりする授業なども行われている。この恵まれた環境を今後もどのように活かしていくのかを真剣に考え続けていくことが、本校国語科の使命といえるだろう。

くずし字学習の意義

二〇一一年に中野三敏氏が『和本のすすめ』（岩波新書）を著し、和本を読むことの意義が広く社会的に認められるようになっていった。その後、近世文学会では「和本リテラシー」の普及活動を行い、「和本リテラシーニュース」という冊子を二〇一五年から二〇二〇年まで五号発行し「和本教育の実践記録」をまとめている。本校で二〇一八年に国文学研究資料館の神作研一先生と書家の柴田敬子先生に出前授業をしていただいた授業も「和本リテラシーニュース」五号に紹介されている。

最近では同志社大学古典教材開発研究センター『未来を切り拓く古典教材―和本・くずし字でこんな授業ができる』（文学通信二〇二三年）なども上梓された。静かではあるが、くずし字教育が中学・高校に浸透してきている社会状況があることは、本校の取り組みの意義を考える時、たいへん感慨深いものがある。

『和本のすすめ』には「現在の文化を成熟させるには、何はともあれ過去を現在から連続的に振り返る術を持たねばならぬ。しかるに現在の日本の知識人の大半は、その術をいとも簡単にふり捨てて、しかもそのことの重大さにほとんど気がついていないのではないか。」[注2]とあり、本校の取り組みは、奇を衒ったものではないのだという思いを強くすることができた。

本校でのくずし字学習は、古典学習の一つの〈ねらい〉としている「無文字社会からの脱却、そして漢字かな交じり文へ」という流れを認識させることの一貫にある。日本においてエクリチュールがどのように獲得されていくのかを高校生なりに俯瞰したいという試みである。石川九楊氏が言うように日本語では「文字は言語に構造的に組み込まれ」ており、「日本語は平安時代に『女手』が生まれて誕生した」[注3]という点を理解しておきたいと思っている。そのためにまず、「一音一文字」という常識を崩しておく必要があった。生徒を「一音一文字」の呪縛から解き放つことの意味は大きい。

一つの解答を目指す凝り固まったモノの考え方を崩し、柔軟なモノの捉え方・考え方に導くためには有効な教育といえよう。

また歴史の順に『古事記』の表記からエクリチュールの説明を始めるよりも、まず変体仮名を習得させたあと『古事記』の表記方法に触れた方が理解が早く、深くなることが試行錯誤の末わかってきた。

もう一つ「書字・印刷の歴史を追う」という〈ねらい〉がある。文字がどのように広まり、使われていったのかを大きな流れとして認識させたい。写本のあり方、古活字の工夫、そして整版という印刷方法だからこそ生まれた表現について認識を深めたい。その上で真筆や手書きの作品（短冊や懐紙）が持つ味わいや遊びを感得したいものである。さらに紙媒体を離れ、個人がディスプレイを通じて文字や写真を世界に発信できる状況になっている現代について考えさせていこうという取り組みである。

新指導要領とくずし字学習

この取り組みが新指導要領から逸脱していないかどうかを確認してみよう。

文科省の新指導要領[注4]には、「言語文化」の指導項目として「言葉の由来や変化、多様性」という項目がある。この部分の解説には「時間の経過による文字の変化については、まず中国から借りてきた漢字のみを用いて書くことから始まり、やがて漢字を省略したり崩したりした片仮名、平仮名を漢字とともに組み合わせて用いるようになった。このことは文字だけに限らず、語彙や文体にも大きな変化をもたらした。」とある。

「古典探究」では、

「古典探究」については、ジャンルとしての古典を対象とし、自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究し、生涯にわたって古典に親しめるようにするため、我が国の伝統的な文化への理解を深める科目として、その目標及び内容の整合を図った。

とある。

そして、言語活動例として「イ　同じ題材を取り上げた複数の古典の作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする活動」が挙げられている。この活動の解説には「読み比べる際には、原文はもちろん現代語訳や解説書なども活用して、より多くの作品や文章に接することも重要である」（傍点筆者）とある。「原文はもちろん」の原文が原典を示すものではないことはわかるが、インターネットで諸本を簡単に見ることができる現代の高校生に原典の写真を見せることにも大いに意味を感じている。

教科書におけるくずし字の扱い

このような指導要領のもとに作られた教科書には、影印がどのように紹介されているのか調べてみた。

「言語文化」の教科書を作成しているのは九社十七種、「古典探究」の教科書を作成しているのは九社十四種である。言語文化の教科書を俯瞰してみる。

「くずし字」に言及している教科書は、数研出版の三冊に「万葉仮名と変体仮名」というページがあり、文字を獲得していった文化史的内容が説明されている。また第一学習社の四冊にも「平仮名の誕生」「変体いろは四十七文字」の紹介がある。

明治書院の一冊にも「変体仮名をよむ」「真名と仮名」「写本の本文」の紹介がある。桐原書店の一冊には「変体仮名の話」という項目が立てられている。大修館書店の二冊の内一冊には「平仮名・片仮名の成り立ち」というトピックが載せられている。十七種類のうち一〇冊にくずし字についての項目が立てられていることに新カリキュラムの意義を感じることができよう。

また写本や版本の文字を紹介する写真版がどの程度紹介されているか、ページ数で確認すると表1のようになる。「言語文化」十七種の教科書のうち、まるで紹介されていない教科書が一種類あることにむしろ驚きを感じた。実際のくずし字を見せることなく、文字の変遷を伝えることは困難なことであろうと推察する。

同様に「古典探究」の教科書を俯瞰してみる。

三省堂の教科書には草双紙の影印とその翻刻が載せられており、絵と本文の混じった草双紙の一端に触れられるように工夫されている。新規参入の文英堂の教科書では「言語活動」「くずし字を読んでみよう」という単元があり、巻末には「平仮名字体一覧」まで載せてある。

数研出版は「近世の出版文化」というページにを設け、往来物が一ページ紹介されている。筑摩書房では「さまざまな写本」という項目があり、影印が比較できるように並べられている。「古典探究」という科目だけに「言語文化」の教科書よりはくずし字の紹介は多くなっているが、もう少し紙幅を費やしてもよいのではないだろうかとも感じた。

【授業実践】

本校三年次のくずし字の授業は、なぜくずし字を読むのかを簡単に説明することから始めている。

次いで明治の戸籍を見せることにしている。私の祖母の戸籍を見せるのだが、祖母の姉妹の名前が変体仮名で記され図1

ている。これは仮名文字であることを伝え、わずか二代前の先祖の名前が読めないことの〈異常さ〉を伝えることにしている。わずか二代なのである。しかも仮名なのだ。現代の高校生にしてみると三代か四代前ということになるかと思われるが、それにしても奇異な現象ではないだろうか。文化の端境期なのだから仕方がないなどとまとめてしまっていいのだろうか。

次に明治の小学読本を見せて百年前の小学生の読んでいた教科書が読めない現実と向かい合わせるようにしている。百年前の小学生が読めていた教科書を高校生が読めない、この現実も戸籍資料と同様に奇異な現象として捉えさせたいと思っている。

そしてくずし字を読むために以下のような段階を踏んでいくことになる。

① 現行の平仮名とカタカナの字母を確認する。

小学校で学んだひらがなは漢字をくずして生まれてきたことを再確認する。このことは日本の文字学習には欠かせない作業である。そして字母の異なる同音の文字が複数存在することを学ぶ。

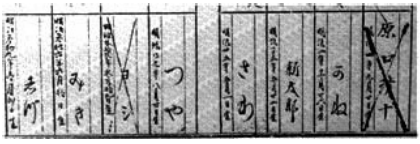

図1

Ⅰ　くずし字かるたを作って遊ぶ

②「一文字かるた」を作って遊ぶ。

A４の厚紙に変体仮名三十二文字を印刷したものを二種類配布し、読み方と字母を示したあと裁断させ、かるたを作る。普通のかるたのように二人一組で競技を行うと、思いのほか生徒は集中して文字を読めるようになっていく。当たり前のことだが、かるたを上下さかさまに並べる生徒は今のところいない。裁断してすぐに文字として認識できている

ことに安心する。

そしてかるた競技を楽しんだあとは、札を使って自分で単語や短文を作ってみる作業をする。グループワークでいろいろと言葉を楽しんでいる。

また、昨年公開された「そあん（soan）」（人文学オープンデータ共同利用センター）を利用して生徒の知悉している楽曲のフレーズなどを見せることができるようになった。嵯峨本の古活字限定であるが初学者には格好の教材が簡便に作れるようになったことはたいへん喜ばしいことである。「そあん」を今後大いに活用したいと考えている。

③「単語かるた」を作って遊ぶ。

食べ物や道具などさまざまな単語の札を作って、一文字かるた同様に楽しみながら学んでいる。最近は東海道の地名かるたを作るようにしている。

一方、②③と平行して、くずし字チェック動画を配信し生徒の自習に役立てている。文字を示して少し間を置いて正解を映し読んでいく動画である。これは生徒には好評で登下校の時間にスマホで確認しているようである。スマホを用いゲーム感覚で学べるようにすることで生徒にとって学びやすさが増すのである。

図2

図2

Ⅱ　街で見かけたくずし字を生徒に紹介してもらう

④蕎麦屋の看板から始まり、箸袋の「おてもと」の文字など、見かけたくずし字をスマホで写真に撮り、その写真を共有しながら読み方を確認していく。

お互いが見つけてきた文字だけに皆が面白がり、楽しく授業展開することに成功している。

Ⅲ　作品を読んでみる

⑤明治時代の小学読本・広文庫などの活版印刷の中に変体仮名が含まれるものを読む。

⑥いろはかるたや双六・浮世絵に書かれた文字などを読む。

⑦さまざまに書き分けられている百人一首を読む。

百人一首は簡単に多くの種類をみることができるので、比較させたりするとくずし字学習にはたいへん有効なテキストである。

Ⅳ　書かれたものが作品鑑賞にどのような影響を与えているかを考えてみる。

⑧浮世絵などの一枚刷りを鑑賞する

次に浮世絵などを見せて、翻字する作業をグループで行う。文字だけを手掛かりにするのではなく、絵柄を頼りにしたり、文法知識を使って読めない文字にあたりをつけて読んでみたりとグループでさまざまな工夫をこなして読んでいく作業は、生徒にとって興味の沸くもののようである。

くずし字を読む作業をしていて思うのは、これまでの古典知識の多寡に関わらず取り組みやすい教材だということ。

成績の芳しくない生徒にとっても取り組みやすい教材であり、授業が活性化してくることを実感することができる。古典の授業で「面白い」と感じさせられる数少ない機会といってよいだろう。

いろはかるたも学びやすい教材である。ただし「いろはかるた」の文言は現代の高校生にとっては百人一首と同じくらい縁遠いものであるらしい。なんとなく耳にしたことがあるフレーズを読ませることで、くずし字に近づかせようという目論見はこちらの期待どおりの結果を生むには至らなかった。それでも絵と文字と教訓が一つになっているいろはかるたは生徒の学びにとって意味があると考えている。古の知恵に学ぶことが多い。

次の段階で教材にしたのは歌川国芳の浮世絵。印刷したものを配布したあと、インターネット上の浮世絵をそれぞれに確認させている。こちらが示した浮世絵を読んだ生徒は次の浮世絵を探してグループで読んだりすることができている。スマホやタブレットを持っている生徒だからできる現代の授業の深まりといえよう。

⑨芭蕉の短冊など生徒の知る作者の真筆を写真で読む。

ここまで版本のくずし字を中心に読んできたが、次の段階として芭蕉などの真筆短冊などを教材にしている。手書き文字の味わいを感じてもらいたいためである。生徒からは「これ芭蕉が自分で書いた字なんですよね」というような声があがり、読めるようになっている自分に驚いているようである。遠くに存在していた芭蕉がぐっと身近に感じられる不思議な感覚を生徒は喜んでいるようだ。

くずし字学習を鑑賞に活かす

一通り平仮名のくずし字が読めるようになったところで、塩村耕氏『江戸人の教養―生きた、見た、書いた。―』（二

○二〇年水曜社）（一四七頁）に載る芭蕉の短冊[図3]を生徒に紹介することにしている。「小さな『○』は文章を訂正する際の記号で、書き添えた文字を、この箇所に挿入せよという意味。補う語句を通常は傍記することが多いが、ここは上部の「月」を指し、つまり『三日月や・・・』

図3

となる。〈中略〉／それにしても、本来清書したものであるべき短冊に、訂正の跡を見せるとは奇妙だが、これは『三日や』と書き損じた句を訂正したのではなく、はじめからわざとこのように書いたに違いない。あたかも句の題のように、上部に「月」を記したところに、遊び心を見せている。／しかもそれは単なる遊びにとどまらない。この句は三日月と朝顔という二つの秋の季語をもつが、朝顔ではなく、月が主題であることを、この書き方で見せている。そんな新たな工夫を思いついて、にやりとする若き日の芭蕉の顔が見えるようだ」と説明されている。主題を明らかにするために月を句題のように配置したという説明だが、「三日」まで目を移動させた読者は一度見上げるように「月」という文字を追うことにこそ注目したい。それは西の空に月を見上げる動作の追体験になっているはずだ。そのことを生徒に伝えると「おぉ」と声が上ることがある。書字が鑑賞に直結している好例だ。これは活字になっている作品からは絶対に感じられない「遊び」である。

次いで芭蕉の万菊丸いびきの図[図4]を見せ、芭蕉の「遊び」あるいは「茶目っ気」について確認する。生徒が持っている鹿爪らしい芭蕉像が一気に人間臭いものになっていくような気がする。

そして「古池や」の短冊[図5]を複数見せることにしている。これらを見て何か気づいたことがあればそれを発表するように促し「探究」の学習につなげようという狙いである。たとえば「飛込」の「込」のしんにょう部分が特徴的なことを

指摘してみると、生徒はここに蛙が飛び込んだ池の波紋を見つけたりしてくるのである。『芭蕉全図譜』（一九九三年岩波書店）で他のしんにようの文字と比較し、自信たっぷりで意見を開陳していた。あるいはそのような遊び心を読み取ることもできるかもしれない。

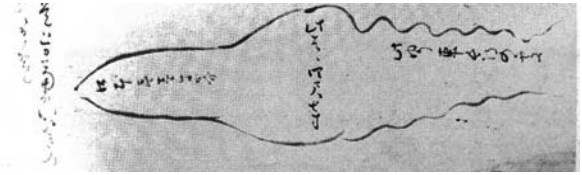

図４

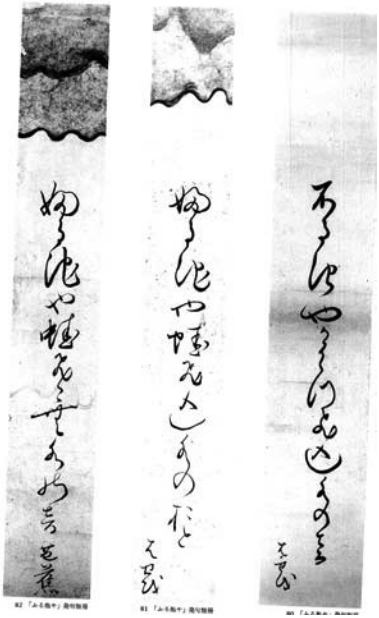

図５

まとめ

二〇二四年度からくずし字学習を古典探究の授業としてあらためて位置づけるために、これまで展開してきた授業の流れを紹介した。三年次一学期前半十五回分の授業である。十五回は多すぎる気もするが、そのような授業が許されている本校の在り方に感謝しつつ擱筆する。大方のご批正を乞うものである。

注1　「高等学校国語・新学習指導要領」に関する見解として、古代文学会／西行学会／上代文学会／昭和文学会／全国大学国語国文学会／中古文学会／中世文学会／日本歌謡学会／日本近世文学会／日本近代文学会／日本社会文学会／日本文学協会／萬葉学会／美夫君志会／和歌文学会／和漢比較文学会が表明した。

注2　『和本のすすめ』二五七頁

注3　「ユリイカ」二〇〇三年四月臨時増刊号「総特集＊日本語」九三頁
『日本の文字』（石川九楊著二〇一三年ちくま新書）にも「西欧の『声を書き写したものが文字である』という考え方では、日本語や日本の文字を捉えることができない」三一頁とある。

注4　高等学校　学習指導要領（平成30年告示）文科省のHPによる。

図4　『漂泊の詩人　芭蕉展―遺墨でたどるその詩と人生』（一九八一年日本経済新聞社）より

図5　『芭蕉全図譜』九六頁

言語文化	出 版 社	書　　名	くずし字図版のあるページ数
	東京書籍	新編言語文化	5
	東京書籍	精選言語文化	9
	三省堂	精選 言語文化	5
	三省堂	新 言語文化	2
	大修館	言語文化	0
	大修館	新編 言語文化	1
	数研出版	言語文化	7
	数研出版	高等学校 言語文化	5
	数研出版	新編 言語文化	4
	文英堂	言語文化	2
	明治書院	精選 言語文化	5
	筑摩書店	言語文化	2
	第一学習社	高等学校 言語文化	2
	第一学習社	高等学校 精選言語文化	2
	第一学習社	高等学校 標準言語文化	2
	第一学習社	高等学校 新編言語文化	2
	桐原	探求 言語文化	1

古典探究	出 版 社	書　　名	くずし字図版のあるページ数
	東京書籍	新編古典探究	8
	東京書籍	精選古典探究 古文編	8
	三省堂	精選 古典探究 古文編	16
	大修館	古典探究 古文編	2
	大修館	精選 古典探究	1
	数研出版	古典探究 古文編	2
	数研出版	高等学校 古典探究	2
	文英堂	古典探究	6
	明治書院	精選 古典探究 古文編	6
	筑摩書店	古典探究 古文編	5
	第一学習社	高等学校 古典探究 古文編	5
	第一学習社	高等学校 精選古典探究	5
	第一学習社	高等学校 標準古典探究	1
	桐原	探求 古典探究 古文編	5

表　1